

ウィキペディア

井真成

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

井 真成（せい しんせい/ い の まなり） 文武天皇3年（699年） - 天平6年/開元22年（734年））は、唐代の日本人の留学生または官吏。日本名は不明。中国の古都・西安で墓誌が発見された。

目次

概説

墓誌

原文

訓読文

抄訳

墓誌の謎

その研究

出自に関する諸説

脚注

参考文献

関連項目

外部リンク

概説

井真成は、中華人民共和国で発見された墓誌に、日本人留学生として記されていた姓名である。

墓誌は、同国陝西省西安市内の工事現場から発見されたと、同国の西北大学が、**2004年10月12日**に発表した。墓誌は発見された後、一度個人の所蔵となったが、西北大学付属博物館が収集したものである[[]。

墓誌には、日本人留学生の井真成が、開元22年（西暦734年）正月■（朔〜十，廿のいずれか）日に死去したので、「尚衣奉御」の官職を追贈されたなどと記されている。これは考古学的に、中国で発見された最初の日本人の墓誌であり、現存の石刻資料のなかで日本の国号を「日本」と記述した最古の例である。

墓誌

原文

墓誌原文は以下の通り。■は、判読できない文字。

贈尚衣奉御井公墓誌文并序
公姓井字真成國號日本才稱天縱故能
■命遠邦馳騁上國蹈禮樂襲衣冠束帶
■朝難與儔矣豈圖強學不倦聞道未終
■遇移舟隙逢奔驪以開元廿二年正月
■日乃終于官弟春秋卅六皇上
■傷追崇有典詔贈尚衣奉御葬令官
■卽以其年二月四日窆于萬年縣澧水
■原禮也嗚呼素車曉引丹旌行哀嗟遠
■兮顏暮日指窮郊兮悲夜臺其辭曰
■乃天常哀茲遠方形既埋于異土魂庶
歸于故鄉

訓読文

墓誌の訓読文は以下の通り。

贈、尚衣奉御、井公墓誌文、并序。
公、姓は井、字は真成、國號は日本。才は天縱に稱ひ、故に能く命を遠邦に■、騁を上國に馳せり。禮樂を蹈み、衣冠を襲ひ、束帶して朝に■、與に儔び難し。豈に圖らんや、學に強めて倦まず、道を聞くこと未だ終へずして、■移舟に遇ひ、隙奔驪に逢へり。開元廿二年正月■日を以て、乃ち官弟に終へり。春秋卅六。
皇上■傷して、追崇するに典有り。詔して、尚衣奉御を贈り、葬むるに官をして■せしめ、即ち其の年の二月四日を以て、萬年縣澧水■原に窆るは禮なり。嗚呼、素車は曉に引きて丹旌哀を行ふ。遠■を嗟きて暮日に顔れ、窮郊に指びて夜臺に悲しむ。其の辭に曰く「乃の天の常を■、茲の遠方なるを哀しむ。形は既に異土に埋むるとも、魂は故郷に歸らんことを庶ふ。」と。

抄訳

墓誌の抄訳は以下の通り。



井真成墓誌（複製）

左は蓋部、右は身部。藤井寺市立生涯学習センター（アイセルシュラホール）展示。

姓は井、字（あざな）は真成。国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠くにやってきて、一生懸命努力した。学問を修め、正式な**官僚**として**朝廷**に仕え、活躍ぶりは抜きんできていた。

ところが思わぬことに、急に病気になる、**開元22年（734年）**の1月に官舎で亡くなった。**36歳**だった。

皇帝は大変残念に思い、特別な扱いで埋葬することにした。体はこの地に埋葬されたが、魂は故郷に帰るにちがいない。

—  *氣賀澤保規*、*中国史*

墓誌の謎

- 墓誌は石面一面に書かれているのが普通だが、この墓誌では左1/4が空白になっている。
- 表記形式が一般のものとは若干異なる。
- 官歴が記されていないのに、死後高位を賜っている。
- 発見が科学的調査によるものではなく、建設工事現場で地下から掘り出され人から人の手に渡ったため、いつ、どこで掘り出されたものか不明である。

その研究

研究によれば、井真成は**717年**（養老元年）、多治比真人**県守**を大使とする遣唐使とともに渡唐したとされる。これは、**阿倍仲麻呂**や**吉備真備**と同時期の渡唐である。井真成の死去の前年である**733年**（日本:天平5年、唐:開元21年）には、多治比真人**広成**を大使とする遣唐使が渡唐し、翌年には留学生**吉備真備**らを連れて帰朝している。したがって、この遣唐使がまだ唐に滞在中に病死したものと考えられる。また、墓誌に**日本**という国名があることが興味深い。**2005年**（平成17年）**12月**には、NHKスペシャル『新シルクロード』で、井真成(演:堺雅人)のイメージドラマが放送された^[2]。

井の姓は中国風に一字に省略したもので、古代の帰化系氏族「**井上**（いのへ）氏」あるいは同様の帰化系氏族「**葛井**（ふじい）氏」の出身ではないかと推定する研究者もいる。この説を元に葛井氏ゆかりの葛井寺がある大阪府**藤井寺市**では、同時期の葛井氏に「**○成**」という名が多く見られることを論拠として、井真成を「葛井真成」と呼び「せめて『墓誌』の形だけでも里帰りを」と求める運動まで起き、実際に**2005年**（平成17年）に実現し、**アイセル**シユラホールで一般公開された^[3]。更に藤井寺市の公式キャラクターとして「まなりくん」というご当地キャラクターが作られている。

出自に関する諸説

井上氏説

鈴木靖民（國學院大學教授）

古代豪族で帰化人の末裔である井上氏の一族ではないかと主張し、葛井氏なら一字にする際に中国にも多い「葛」姓にするのではないかと主張。また、葛井氏は720年（養老4年）に下賜された姓（『続日本紀』）であることから、井真成がその3年間に唐に派遣された事実との年代的矛盾が生じること、井上忌寸と葛井連は同じ河内国志紀郡を拠点とする渡来系氏族であることも指摘する^[4]。

葛井氏説

東野治之（奈良大学教授）・佐伯有清（元北海道大学教授）

古代豪族で帰化人の末裔で外交官などを輩出している葛井氏の一族ではないかと主張。

情真誠説

張雲方（中日関係史学会副会長）

中国の言葉でまじめでまっすぐな人柄を指すときに使う言葉の音に似た姓名を皇帝より下賜されたのではないかと主張し、日本名に関しては不明と主張。

中国姓説

王維坤（西北大学教授）

「井」姓は唐の時代から長安周辺に多い姓であり、それを採用したと主張し、日本名に関しては不明と主張。

高級官吏説

韓昇(復旦大学教授) は下記のことから「**717年**の留学生ではなく、**733年**の遣唐使の随員（高級官吏）だったと」と主張している^[5]。

- 唐の制度では、官立学校の在学期間は最長9年まで「17年間留学した」とは考えがたい。
 - 日本側反論、日本の遣唐使は20年1回が原則で、**新羅**など他の周辺国のように頻繁遣使国とは違い、帰国できる次期遣唐使までは残留が認められたはずだ^[6]。
- 死後追贈された役職「尚衣奉御」は、皇帝の衣服を管理する部門の責任者で従5品上の官であり、単なる留学生に与えられるものではない。**新羅**の例から元の官位より1階進めて追贈する。井真成は従6位下と推定し、遣唐使使節の随員の「准判官」となり日本記録には残らず遣使仮増位で従5位下とされ、その死に際し1階上の「尚衣奉御」が追贈された。
- 井真成の死は皇帝に報告され、葬儀の費用は唐政府が負担したと記されているが、これは三等官以上の外国使節に対する扱いである。
 - 日本側反論、鈴木靖民は、入唐間もない尚衣奉御の追贈に合った身分ならば日本でも高級官吏のはずで、遣唐使節での死去なら日本側の記録に残らないことはなく、推定として留学生として同行し、**阿倍仲麻呂**のように唐朝官吏に拔擢されたが、若くして客死して昇任せず唐側の記録には残らなかった、とする^[6]。
- 井真成が死んだ場所が、短期滞在外国使節用の宿泊所である**官第**（かんでい）である。これは、井真成が唐朝にとり客だと示している。長安在住の唐代官人は自宅から通勤するのが通例だからだ。

脚注

- ↑ “墳补历史空白 日本遣唐留学生墓志首次在西安发现” (http://www.chinanews.com.cn/news/2004/2004-10-12/26/493191.shtml). 中国新聞網報道. (2004年10月12日) 2011年9月1日閲覧。 （中国語）
- ↑ NHKスペシャル-新シルクロード 第10集　西安　永遠の都 (http://www.nhk.or.jp/silkroad/detail/10.html) Archived (https://web.archive.org/web/20041028083831/http://www.nhk.or.jp/silkroad/detail/10.html) 2004年10月28日, at the Wayback Machine.
- ↑ 中浜宏章（2005年2月7日）.“西安の墓誌” (https://web.archive.org/web/20051129183617/http://osaka.yomiuri.co.jp/katati/ka50207a.htm). 読売新聞. **オリジナル** (http://osaka.yomiuri.co.jp/katati/ka50207a.htm)の2005年11月29日時点によるアーカイブ。 2011年9月1日閲覧。
- ↑ 鈴木靖民『中国西安の日本遣唐使墓誌と墓主井真成』（初出：『東アジアの古代文化』123号（2005年）/所収:鈴木『日本の古代国家の形成と東アジア』（吉川弘文館、2011年） ISBN 978-4-642-02484-6
- ↑ 韓昇 2009.
- ↑ ^{*a*} ^{*b*} 2010年1月27日朝日新聞夕刊「『井真成』はどんな人? 中国で官吏説」

参考文献

- 専修大学・西北大学共同プロジェクト 編『遣唐使の見た中国と日本 新発見「井真成墓誌」から何がわかるか』（朝日選書、2005年）ISBN 4-02-259880-8
- 藤田友治 編著『遣唐使・井真成の墓誌 いのまなり市民シンポジウムの記録』（ミネルヴァ書房、2006年）ISBN 4-623-04619-2
- 韓昇、河上麻由子（訳）「井真成墓誌の再検討 ([http://ir.acc.senshu-u.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2644&item_no=1&attribute_id=15&file_no=1&page_id=13&block_id=\(PDF\)](http://ir.acc.senshu-u.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2644&item_no=1&attribute_id=15&file_no=1&page_id=13&block_id=(PDF)))」『専修大学社会知性開発研究センター東アジア世界史研究センター年報』第108巻、専修大学、2009年12月、 97-108頁、2019年8月20日閲覧。

関連項目

- 遣唐使
- 唐
- 葛井寺
- アイセルシュラホール - 墓誌の里帰り展示後はレプリカを展示中。
- 藤井寺市 - 市の公式キャラクターが井真成をモデルとした「まなりくん」。。^[1] (http://www.city.fujiidera.lg.jp/9,12112,124.html)

外部リンク

- 井真成の謎を読み解く (<https://web.archive.org/web/20080526150929/http://www.china-embassy.or.jp/jpn/xwdt/t193404.htm>) - 駐日中国大使館（日本語）
- 遣唐使と唐の美術 (<https://web.archive.org/web/20080502160700/http://www.narahaku.go.jp/exhib/2005toku/kentoshi/kentoshi-1.htm>) - 奈良国立博物館
- 井真成市民研究会 (<http://www.geocities.jp/imanarikenkyukai/>)
- 「井真成」墓誌レプリカ展示解説 (http://www.f-sukiyanen.or.jp/modules/contents01/index.php?cat_id=9) - 藤井寺市商工会
- まなりくんホームページ (http://www.fujiidera-kanko.info/manarikun/top_index.html)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=井真成&oldid=74358899>」から取得

最終更新 2019年9月23日 (月) 14:16 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストは クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は 利用規約 を参照してください。